

農作物（果樹）の雪害事後対策（第2報）

平成26年2月20日

果樹技術普及センター

2月14～15日の積雪により、農業施設や農作物に甚大な被害が発生しているが、積雪量が多いために、現在も近づけない圃場がある。

倒壊しかけている施設には、安全を確かめてから修復作業に取りかかることと、損壊した施設が雪に埋もれている場合は、雪解けを待って作業を開始していただきたい。

次の降雪にも備えることも考えて、雪害に対する事後対策の徹底をお願いしたい。

パイプハウス

- ・燃料の流出や電気の漏電をよく確認し、周辺に流出しないように注意する。
- ・倒壊し、危険なビニールハウスの撤去は、雪解けを待って行う。
- ・一部破損したハウスでは、速やかに破損箇所の修復を行い、農作物の保温・加温に努める。
- ・破損箇所が修復できず、加温・保温できない場合は、露地に戻す。（次ページ参照）

露地ブドウ

- ・棚の倒伏した園では、樹体の裂傷等の被害を確認し、主幹部等に亀裂が発生している場合にはマイカー線等による結束を行ってから、支柱等を利用し樹体を持ち上げる。なお、傷口にはビニール等を巻き付け雨水がしみこまないようにする。
- ・積雪量が多いため、被害の無い園でも、凍寒害対策として、肥料袋等を主幹部分に巻き付け樹体を保護するとともに、樹もとの防寒対策（敷ワラ等）もあわせて実施する。ブドウ棚等を点検し、支線の緩みやアンカーの浮き上がりが見られる場合には、早急に補修・補強を行う。

露地立木果樹

- ・主枝・亜主枝等に亀裂が発生している場合には、マイカー線等による結束とビニール巻き付けを行う。
- ・枝折れが発生している場合には、枝折れ部分を切除し切り口に癒合剤を塗布する。

融雪対策

- ・北面斜面や日当たりの悪い園では、夜間の雪上部の冷え込みにより凍害が発生しやすいとともに、ほ場の雪により計画的に農作業ができない場合は融雪対策を行う。
- ・若木園では株際を中心に雪かきを行う。
- ・バーク堆肥などのように、比較的細かい堆肥を10a当たり200kg程度散布したり、モミガラ燻炭を300リットル程度散布する。

参考

生育ステージ別の被害予測と生育観察による対応

生育ステージ	脱包	催芽	萌芽以降
ハウスブドウ栽培、開放後の露地への適応性（対低温）		?	×

主芽が萌芽以降で枯死したとしても、副芽が残っている場合は、副芽が伸び、新梢の確保や花穂や房をとれる可能性があるため、樹体の保護や防寒対策に努め、その後生育観察を行う。

（防寒対策は露地ブドウの項参照）

生育ステージの状況（巨峰）



脱包

（頂部が割れ、芽の先端が見える）



催芽

（芽の先端は緑色になる）



萌芽

（芽は全体に緑色となるが、綿毛で覆われている）